■追悼文

山嵜鉄夫先生を偲んで

大垣　英明（京都大学）

誠に残念な事でありますが，旧工業技術院電子技術総合研究所量子放射部部長，元京都大学エネルギー理工学研究所教授（副所長），エネルギー科学研究科エネルギー応用科学専攻　山嵜鉄夫　京都大学名誉教授におかれましては，昨年11月9日朝，国立がんセンター東病院にてお亡くなりになりました．享年67歳でした．原因は不詳ですが，2009年9月の健康診断で小細胞肺ガンが見つかって以来，抗ガン剤治療を続けられておりました．

小細胞肺ガンは一般に悪性度が高く，進行も早い傾向にある中で，山嵜先生の場合は，放射線治療も当初は受けられましたが，主に抗ガン剤による治療により，一時はガン細胞がかなり縮小し，研究アドバイスや執筆活動，更にはお住まいのある守谷市での市民オーケストラ活動などを，精力的にこなされておられました．すっかりと申し上げても良い位のご回復ぶりで，今年から韓国原子力研究所の世界レベル研究センター海外研究協力員としても研究アドバイスを開始されたばかりでしたので，残念でなりません．

山嵜鉄夫先生は，1971年 京都大学大学院工学研究科原子核工学専攻博士課程を修了され同年，通商産業省工業技術院電子技術総合研究所に入所され，1998年まで同研究所の量子放射部に所属し，電子線加速器や放射線遮蔽，自由電子レーザーに関する研究を行ってこられました．この間，電子蓄積リングを用いた自由電子レーザーを我が国で初めて発振させるとともに，その短波長化に関しては（当時）世界記録をマークし，世界の自由電子レーザー研究をリードしてこられました．

1992年からは京都大学の旧原子エネルギー研究所に併任され，1998年の転任から2007年の退職まで京都大学エネルギー理工学研究所教授として小型の電子線形加速器を用いた自由電子レーザーの開発を進められました．開発開始当時に描かれた構想は，山嵜先生の持論であった小型で予算的にも小規模な分散拠点の必要性と共に，加速器学会誌の記事に書かれています（「加速器」Vol. 2, No.2, 2005 (251-256)）．

山嵜先生はこの間，大学院エネルギー科学研究科の講義や大学院生の研究指導等，研究者の育成にも尽力されました．失敗を喜んで認め，失敗から回復しようとする姿勢や，いずれは必ず成功するという信念の大切さを常々語られていました．また，韓国ソウル大学と京都大学を拠点大学として1998年から10年間にわたって実施された学術交流事業においては，相対論的電子ビームとその応用に関する研究課題の日本側代表を務められ，電子加速器分野における日韓交流の進展にも大きく貢献されました．

山嵜鉄夫先生は，その音楽活動においてもセミプロ級のバイオリン奏者でもあり，研究会や色々な集まりの際には演奏を行われ，集まった者を楽しませて頂いており，京都大学を定年退職後も音楽活動も継続されておられましたが，昨年11月3日に急に胸の痛みを訴えられて入院され，9日にご家族全員に看取られつつ旅立たれました．

天国にて大好きなバイオリンやお酒を存分に楽しんでおられることを願いつつご冥福をお祈りいたします．